

第5章 今後の課題

(1) 首都圏 3 環状道路の整備等に伴う交通流動分析

本業務では、近年の交通施策・交通計画や物流等の社会情勢の変化、および幹線道路（高規格幹線道路やその周辺道路）の開通を踏まえ、首都圏 3 環状道路を始めとする都心部、および首都圏域の交通流動について分析を行った。具体的には、トラカンデータや ETC データ、ETC2.0 プローブデータ等の各種データを用いて分析した結果、①交通流動の変化はネットワーク変化による影響が大きいこと、②圏央道の開通により沿線地域の企業立地が増加しており、地価・税収も増加していること、③首都圏 3 環状道路の概成により多くの地域で高速道路へのアクセス性が向上していることを確認した。また、外環道千葉区間開通 5 年後の交通動向分析や、圏央道の暫定 2 車線及び 4 車線区間の時間信頼性の比較等を行い、道路整備による効果や現在の課題を整理した。

今後も、様々な観点で社会情勢の変化が想定されることから、引き続き交通流動分析を行い、時系列的な変化を把握して、首都圏における交通施策等の基礎資料とすることが重要である。

(2) 首都圏道路交通課題に対する対策方針の検討

本業務では、首都圏（圏央道内側）及び東京外環自動車道（湾岸～東名）における羽田空港アクセスや京浜港の状況、湾岸地域の課題（物流・人流）に関する分析を実施し、対外的な説明資料として整理した。また、東京湾アクアラインとその周辺道路を対象に最新の交通状況分析を実施した。さらに、首都圏西部（外環道から圏央道のエリア）における圏央道内側に位置する業務核都市を対象に、都市間の移動特性を把握するとともに、問題点や課題を整理し、広域道路ネットワークの拡充（業務核都市間の道路ネットワーク等）の必要性があることを示唆した。

今後も引き続き、多様なデータを組み合わせた分析により、より多面的に交通状況を明らかにし、首都圏 3 環状の整備効果を整理し、さらなる利便性向上に向けた検討を行うことが重要である。